

ポイ捨て…私はこう考える

日時

2016年
2月13日(土)
11:45～15:00

環境情報・写真データを用いた コミュニティ活性化支援に関する共同研究 ～「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)
准教授・主任研究員 庄司昌彦 Masahiko Shoji

これまでの研究概要と成果

目的

- 川崎市は公害を克服した環境先進都市であるが、**少子高齢化、単身世帯化、ライフスタイルの多様化等**が進む今後は、地域コミュニティの協力関係が弱まり、環境保全など地域課題を解決する能力の低下が懸念される。
- 本来は住民の協働で解決できる地域課題が行政に持ち込まれれば、**行政・社会的コストが増大**する。
- そこで、環境等に関するデータ等を社会的資源として活用し、**地域の環境コミュニケーション活性化の効果的な方法やプロセスを確立**する。

2014年度研究の概要・成果

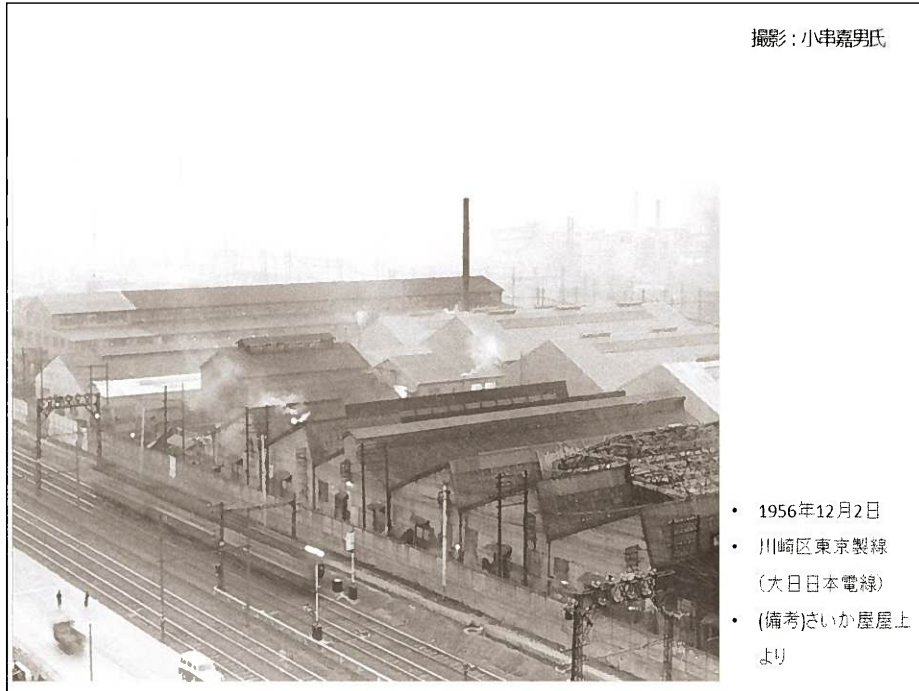
- 1. 社会資源の発掘と環境視点での再編集**
 - 写真：市民寄贈の風景写真（戦前～）
 - 映像：市政ニュース（1956年～）
- 2. 社会資源の活用**
 - ウォッチソン（映像視聴＋対話）
 - 「環境 × 川崎の過去・現在」を対話するワークショップ

2015年度研究の概要・成果

- 1. 社会資源の発掘と環境視点での再編集（継続）**
- 2. 身近な地域の環境を定量把握する参加型調査、可視化に基づく対話**
 - 路上ゴミ調査＋対話WS
- 3. 幅広い関心のコミュニティを交差させるワークショップ**
 - 新たな人間関係や自発活動の創出

成果（方法・プロセスの確立）

資料：2014年度研究活動



撮影：小串嘉男氏

- 1956年12月2日
- 川崎区東京製線
(大日本電線)
- (備考)さいか屋屋上
より



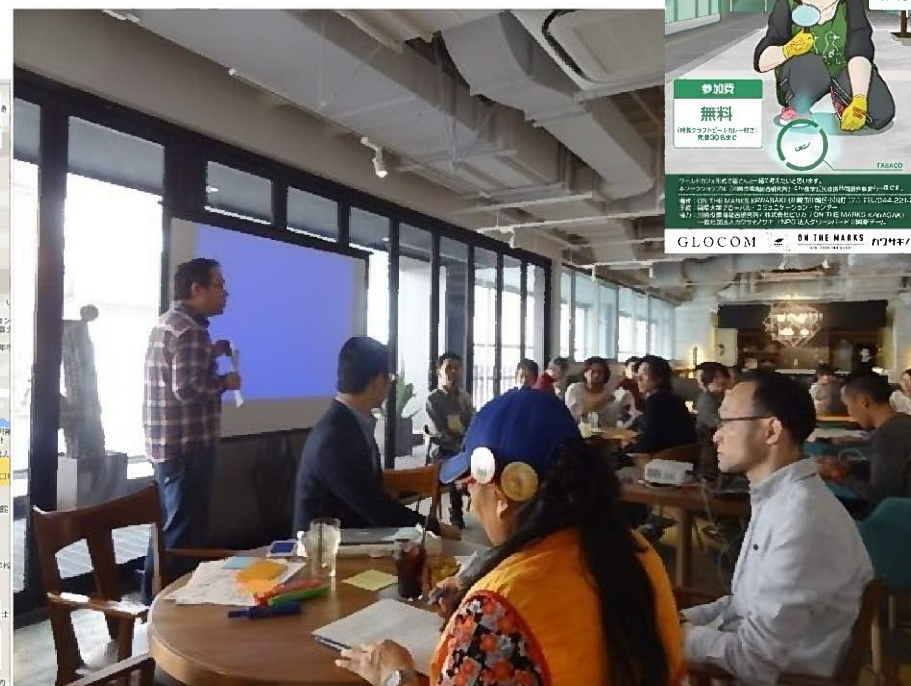
資料：2015年度研究活動



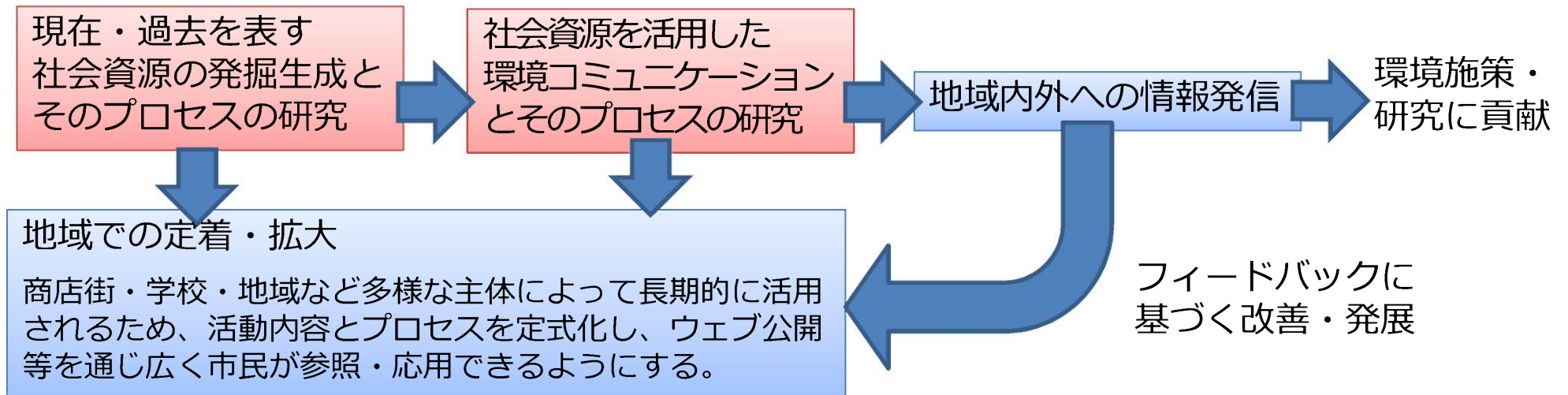
合計



| 品名 | 数量 |
|------|-----|
| たばこ | 674 |
| ガム | 180 |
| 飲料容器 | 39 |



研究の全体像と課題



| | 過去 | 現在 |
|-------|---------------------|---------------------|
| データ | 2014年度△ 2016年度重点 | 2015年度○ |
| 写真・映像 | 2014年度○ | 2015年度△ 2016年度重点 |

- これまで「過去・現在」それぞれのデータと写真・映像等を収集・生成して環境コミュニケーションを実施
- これまで収集・活用できていない「過去」の路上ゴミ等データと、「現在」の身近な環境写真・映像の活用が課題
- 環境を主な関心としない人々を含む多様な人々がデータをより深く理解し実際の活動に結びつくようなコミュニケーション手法の洗練が課題

2016年度研究の概要

- 身近な地域の環境データの推移、環境や自然に関わる人々の努力、街の変容を表す写真・映像などを、地域の過去と現在、多世代・多職種の人々のコミュニケーションをつなぐ媒体として機能させる方法を確立する社会科学的な研究。
- 3年計画の最終年として、2年間行ってきた下記項目1～3を川崎駅周辺で深める。

研究項目1：地域コミュニケーションに役立つ現在・過去の環境データの**発掘・生成手法**
研究項目2：環境データの**地域コミュニケーション**での活用手法
研究項目3：「川崎モデル」としての成果情報発信。地域での定着・発展

【本研究の位置づけ】

- コミュニケーションを軸として地域コミュニティの人々の関係を再構築する試み
 - 総務省地域SNS実証実験等では、異なる背景や世代の人々の関係を継続発展させる方法は確立していない
 - 参加者の多様性がなければ持続的なつながり創出やコミュニティ活性化は困難。
- 特長は「テーマ：環境」と「過去と現在をつなぐ観点」でコミュニケーションを媒介する点
 - 写真や地域データによるコミュニケーション媒介は「富士宮プロジェクト（総務省事業：2013年）」や川崎市宮前区「G空間未来デザイン（国交省事業：2014年）」で実績
- 地域の環境コミュニケーションの「川崎モデル」として普及できるようまとめる

1 地域コミュニケーションに役立つ 現在・過去の環境データの発掘・生成手法

- 過去から現在の環境の推移、街の姿の変貌などを示すデータ・写真・映像素材等を社会的資源として再発見するとともに、その探索プロセスを確立する。
- 収集できていない「過去」の路上ゴミ等データと、「現在」の身近な環境写真・映像の活用を課題とする。
 - これにより「過去」「現在」それぞれにおける身近な環境の写真・映像とデータが一通り揃う。

- 川崎駅周辺の身近な環境の様子を示すデータ・素材の収集整理
 - ※観点は過去の路上ゴミ、清掃活動、ゴミ箱、人々の生活等
 - ※環境総合研究所への依頼、地元商店街・自治会等への聞き取り等
 - 「市民が作る公共財としてのオープンデータ」振興は最新課題である。川崎市のオープンデータ担当部署とも連携したい。
- 「現在」のデータについては、ピリカとの協働による路上ゴミ拾い調査および動画解析からの調査データ作成を継続する。

| | 過去 | 現在 |
|-------|---------------------|---------------------|
| データ | 2014年度△ 2016年度重点 | 2015年度○ |
| 写真・映像 | 2014年度○ | 2015年度△ 2016年度重点 |

2：環境データの地域 コミュニケーションでの活用手法

- 環境の過去と現在に関わるデータや写真等を素材とし、地域での環境コミュニケーションを活性化する手法を確立する
 - 様々な地域活動団体や地元企業など、これまで身近な地域の環境問題との関わりが薄かった人々を含む多様な人々の協働の創発を目指す
 - 類似の活動を自ら実践してみたい人々が参照できる実践的な手引・素材手引を作る
- 川崎駅周辺でのワークショップ×3回
 - テーマは「写真・映像、データ、地図」等の媒体別か、「路上ゴミ、生活スタイル、協力」等の観点別
- 総括ワークショップ×1回
- 評価を行うための方法の開発
 - 地域社会におけるコミュニケーション促進や人間関係の強化にどの程度資するか等、地域ソーシャルネットワークに関する研究の観点から検討
 - 運営ノウハウを「パターンランゲージ」として整理
 - ワorkshop実施の具体的手法を複数用意し目的別に整理

3 : 「川崎モデル」と成果等の情報発信、地域での定着・発展

- 成果を「川崎モデル」として広く情報発信し、地域での定着発展を支援
- ウェブサイト
 - ワークショップのレポートや調査データ等の公開
 - 類似の活動を自ら実践してみたい人々が参照できる実践的な手引・素材をWebサイト等で紹介
- ソーシャルメディア
 - より多様で多くの人々の参画と、他地域での自発的な活動の創発をねらい、Facebook等ソーシャルネットワーク上での情報の広がりや人のつながりを意識した情報発信に力を入れる。
- 川崎国際環境技術展に出展
 - 来場者に対話型の手法を交えて紹介



http://www.glocom.ac.jp/project/kawasaki_time_machine/

成果物のイメージと川崎市への貢献

- 現在・過去の環境データの発掘・生成
 - 身近な環境の変遷の理解に役立つ素材（写真・映像・データ等）を収集・発掘・編集し、公開する
 - データの発掘や生成について行った手法をまとめた報告書を公開
 - 川崎駅周辺で身近な環境の変遷に関するワークショップを4回開催し、収集、分析したデータ
 - その他当研究で作成したデータ
 - 作成したデータ、得られた知見のウェブサイト等での情報発信
- 環境データの地域コミュニケーションでの活用手法の確立
 - 地域の多世代・多職種の人々の関係構築や環境コミュニケーションに活用する手法を開発しまとめた手引のウェブサイト公開
 - 作成したデータ、得られた知見のウェブサイト等での情報発信
- 報告会へ・イベントでの情報発信
 - 共同研究事業報告会、川崎国際環境技術展で研究内容を紹介する
 - 市内外のシビックテック団体、企業、町内会、学校、福祉関係施設、関連テーマに取り組む団体等とも連携し、本研究内容等を紹介する

実施計画・スケジュール

| 予定時期 | 実施内容 |
|-------|--|
| 7-8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・川崎駅周辺の身近な環境の様子を知ることが出来るデータ・素材の収集整理 ※観点は過去の路上ゴミ、清掃活動、ゴミ箱、人々の生活等 ※環境総合研究所への依頼、地元商店街・自治会等への聞き取り等 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在・過去のデータ・写真等を活用した環境コミュニケーションのためのワークショップの企画 |
| 9-11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・川崎駅周辺でのワークショップ実施3回 ※テーマは「写真・映像、データ、地図」等の媒体別か、「路上ゴミ、生活スタイル、協力」等の観点別 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ成果に基づく項目1・2の振り返りとりまとめ ・総括ワークショップ（12月） |
| 1-2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・「川崎モデル」ガイド（PPT資料等）の作成 ・情報発信、プロモーションの実施（国際環境技術展、ウェブサイト） ・まとめ・報告書作成 |

※情報社会学会研究大会（7月30日）にてWork in Progress発表「社会的資源としてのデータを活用した地域の環境コミュニケーション活性化—川崎市との共同研究から—」を実施予定

関連活動や成果

• オープンデータ活用

- (一社) Open Knowledge Japan <http://okfn.jp/>
- 国土交通省 平成26年度「地理空間情報に関するアプリケーション・サービス普及促進業務」「G空間未来デザイン」プロジェクト
※国際大学GLOCOMほか。宮前区にて実施。
<http://gfuturedesign.org/>
- 内閣官房IT総合戦略室オープンデータカタログサイト&ダッシュボードパッケージ導入支援(平成27年度:奥出雲町・安来市、阿波市)

• ワークショップ関連

- Innovation TOKYO for 2020 and beyond~対話から新しい東京のかたちを探る~(Googleとの協働) http://innovation-nippon.jp/reports/2015StudyReport_InnovationTOKYO_all.pdf

• 過去を写した写真の発掘・活用

- 総務省 平成24年度「ICT超高齢社会づくり推進事業」(富士宮プロジェクト:地域の過去の様子の写真を活用した世代間対話)
http://www.glocom.ac.jp/2014/04/post_200.htm

!

• 地域コミュニケーション

- 地域SNS研究会(国際大学GLOCOM)
<http://www.local-socio.net/>
- 庄司昌彦,「地域における社会ネットワークと情報通信技術」,『国立民族学博物館調査報告』106, 61-80, 2012年8月, 国立民族学博物館.
- 庄司昌彦,「地域SNSと環境保全活動」,『環境情報科学』39(1), 34-39, 2010-03-23. 環境情報科学センター.

• 多様な人々の参画する社会

- 厚生労働省 平成26年度 老人保健健康増進等事業「認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業」
<http://www.glocom.ac.jp/project/dementia/>

• 地域の現状調査(ゴミ拾い) 関連 ※ピリカ

- ソーシャルゴミ拾いプラットフォーム「ピリカ」/ポイ捨て調査・分析「タカノメ」
<http://corp.pirika.org/> <http://research.pirika.org/>
- 2016年5月20日 日本経済新聞「代々木公園ポイ捨て最多 五輪会場予定地を調査 歩道1メートルにごみ1.06個」
<http://www.nikkei.com/article/DGXXZ002538150Z10C16A5L83000/>
- ごみ拾いアプリ「ピリカ」を使用した清掃活動 福井県ホームページ
<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoe/pirika.html>